

調査・設計等業務における 総合評価落札方式の実施状況 (平成22年度年次報告概要)



年次報告の作成の目的

本年次報告は、国土交通省における総合評価落札方式の現況をとりまとめ、公表することにより、同方式の普及・拡大、ダンピング防止策、入札契約制度に関する諸課題への確実な対応に資することを目的として作成するものである。

目 次

1. 平成22年度 年次報告のまとめ	p.1
2. 建設コンサルタント業務の全契約状況	p.3
3. 総合評価落札方式による契約状況(概要)	p.4
4. 落札者の状況	p.6
5. 落札率の分布状況	p.9
6. 調査・設計分野における低入落札発生状況	p.12
7. 評価項目毎の採用状況	p.13
8. 評価テーマの設定状況	p.19
9. 評価項目毎の得点率	p.21
10. 落札者と評価値が2位、3位の技術点分布	p.27
11. 調達方式、配点比率と業務成績の関係	p.28

1. 平成22年度 年次報告のポイント

(1) 価格と品質による総合的な評価について

- ・ 調査件数5,064件中、技術点の最高得点者が落札した割合は87.3%であり、**技術競争が優位**な結果となった。
- ・ 価格点と技術点の比率について、1:1~1:3の全比率において**技術点1位者が落札した割合は75%以上**、**1:2と1:3では85%**を超えており、技術競争が優位な傾向が伺える。
- ・ 落札率の分布状況について、価格競争と比較すると、平均落札率が3.1ポイント高い。
- ・ **価格競争に比べて総合評価落札方式の低入落札発生率が低い**(価格競争:34.3%, 総合評価落札方式:7.2%)。
- ・ **総合評価落札方式の低入落札発生率7.2%は、21年度の11.2%から更に減少している。**

(2) 得点、業務成績の状況について

- 評価項目は、**土木コンサル、測量、地質調査**ともに「**実施方針**」、「**評価テーマ**」に重点を置いている。
- 評価テーマの内、**土木コンサル、測量、地質調査**ともに「**品質、精度向上**」が総じて多い。そのほか土木コンサルでは「**その他の技術**」が、測量、地質調査では「**施工、調査設計に関する技術**」が多い。
- 落札者と非落札者の得点状況を比較すると、「**実施方針**」「**評価テーマ**」に対する提案において差が生じている。
- **9割を超える業務で技術点順位が1位又は2位の者が落札**している。落札者と総合評価値が2位、3位の技術点を比較すると、その差5.5点の中で競争しており、上位3位までの平均点も44.6点。60点満点の中で**高いレベルで競争**が行われている。
- 平成22年度の総合評価落札方式の成績評定点平均は75.5点となった。これは**価格競争よりも1.5点高い平均点**となっている。

2. 総合評価落札方式の実施状況

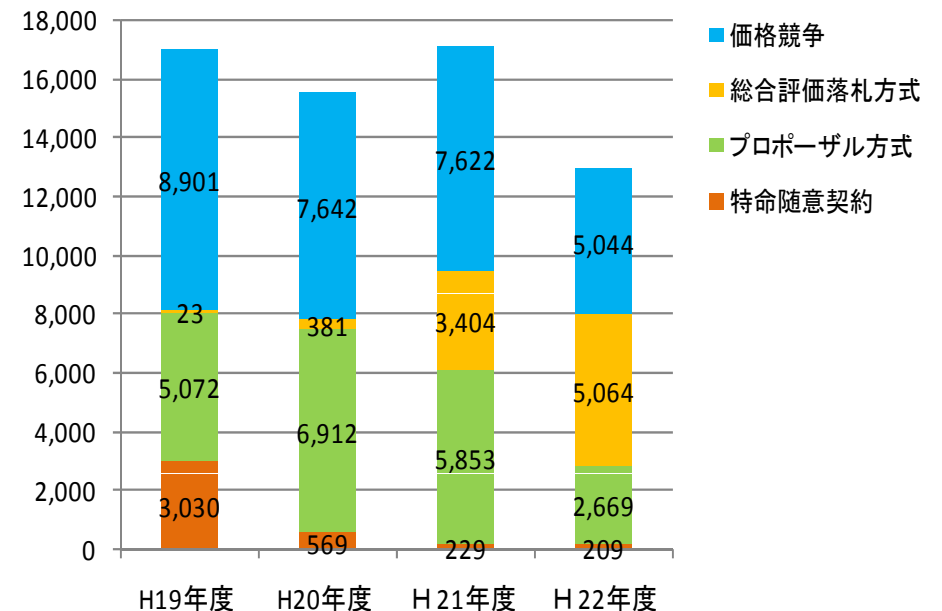
●建設コンサルタント業務等の契約状況

- ・平成22年度の建設コンサルタント業務等の発注件数は12,986件。
うち、総合評価落札方式は**5,064件(39.0%)**。対前年比で約1.5倍に増加。
- ・平成22年度実績で、**総合評価が約4割、価格競争が約4割、プロポーザルが約2割**(件数ベース)。

地方整備局等における契約状況

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	増減率 (H22-H21)/H21
価格競争	8,901 (52.3%)	7,642 (49.2%)	7,622 (44.6%)	5,044 (38.8%)	▲33.8%
総合評価落札方式	23 (0.1%)	381 (2.5%)	3,404 (19.9%)	5,064 (39.0%)	48.8%
プロポーザル方式	5,072 (29.8%)	6,912 (44.6%)	5,853 (34.2%)	2,669 (20.6%)	▲54.4%
特命随意契約	3,030 (17.8%)	569 (3.7%)	229 (1.3%)	209 (1.6%)	▲8.7%
合計	17,026	15,504	17,108	12,986	▲24.1%

契約件数と調達方式の推移



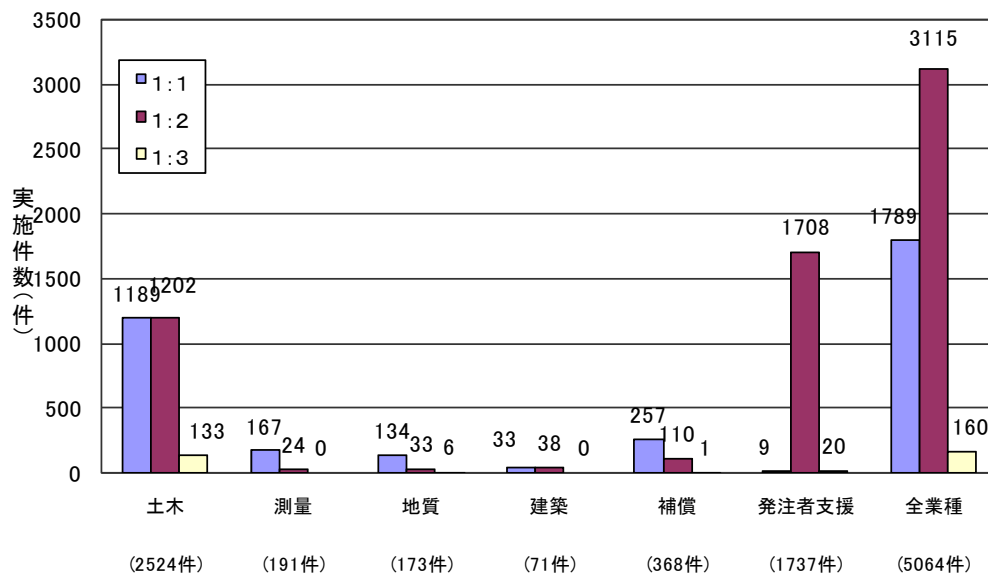
※対象は北海道開発局および8地方整備局の業務(港湾空港関係を除く)

※6業種の合計(土木コンサル、測量、地質調査、建築、補償、発注者支援)

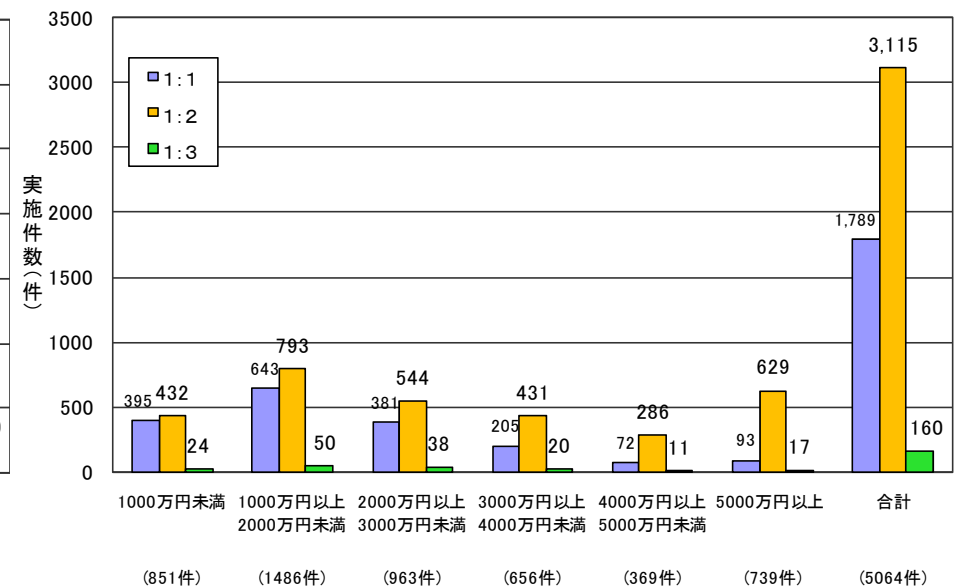
●総合評価落札方式による契約状況

- ・業務内容別では、土木コンサル2,524件、測量191件、地質調査173件、建築71件、補償368件、発注者支援関係1,737件。
- ・価格帯の内訳では、1,000万円～2,000万円が最も多く3割弱を占め、4,000万円未満で全体の8割弱を占めている。

H22年度 総合評価落札方式 業種別の実施件数



H22年度 総合評価落札方式 予定価格帯毎の実施件数



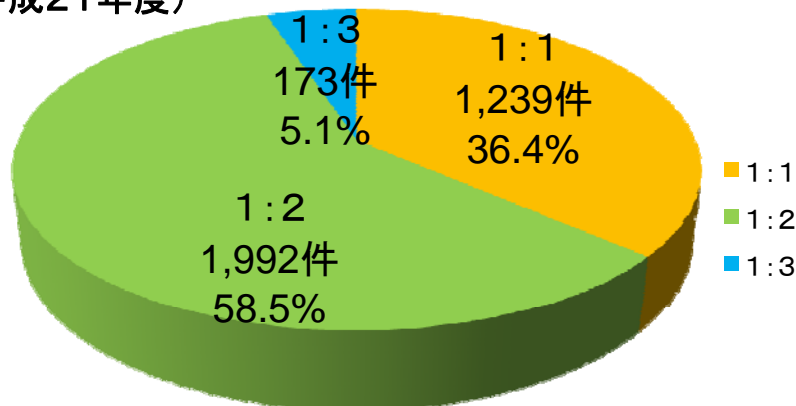
・配点比率別では、1:1が35.3%、1:2が61.5%、1:3が3.2%であり、1:2と1:3で約65%を占める。

<基本的な考え方>

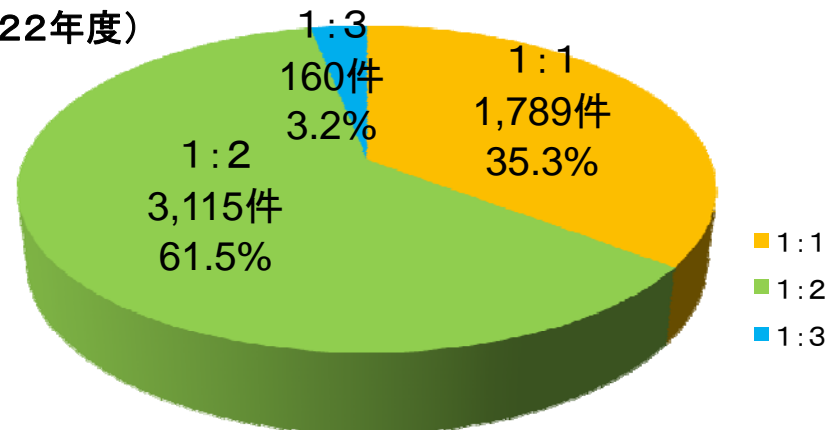
	比率	技術提案
標準型	1:3	実施方針+評価テーマ(2つ以上)
	1:2	実施方針+評価テーマ(1つ)
簡易型	1:1 ※業務の難易度に応じて1:2も使用可	実施方針のみ

<契約状況>

(平成21年度)



(平成22年度)

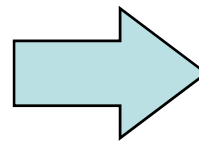
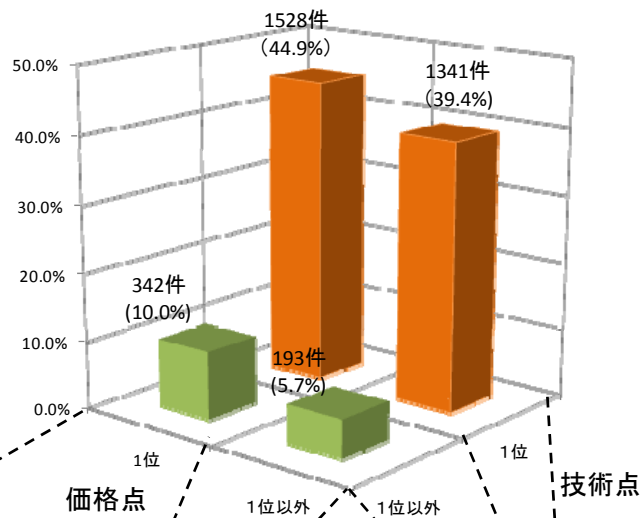


※分析対象は全6業種(土木、測量、地質、建築、補償、発注者支援)、H21:3,404件、H22:5,064件

- ・最低価格者を含め、技術評価点の最高得点者が落札した割合(技術点1位)は**4,420件(87.3%)**であり、平成21年度に引き続き**技術評価点による競争が優位な結果**となっている。
- ・土木、測量、地質の業種別にみると、技術点1位が落札した割合は75%を超える。**道路、地質分野においては、河川、測量分野と比較し、価格点が5位以下にもかかわらず落札した者が多い(道路23.6%、地質30.6%)**。

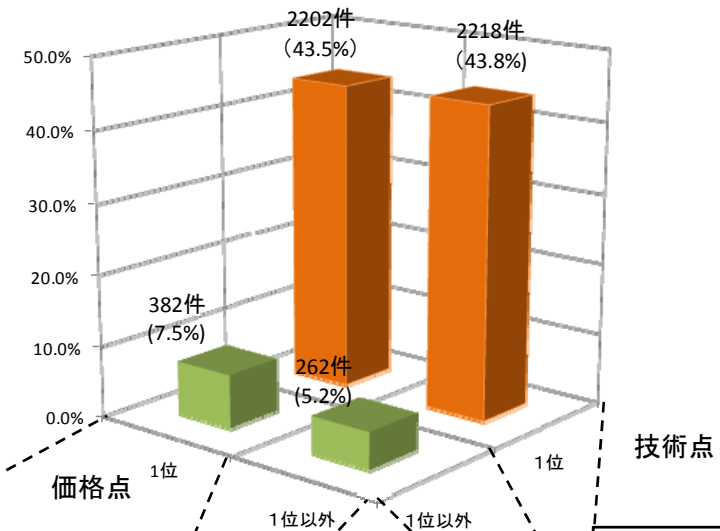
平成21年度

総合評価落札方式 落札者の内訳(全業種)



平成22年度

総合評価落札方式 落札者の内訳(全業種)



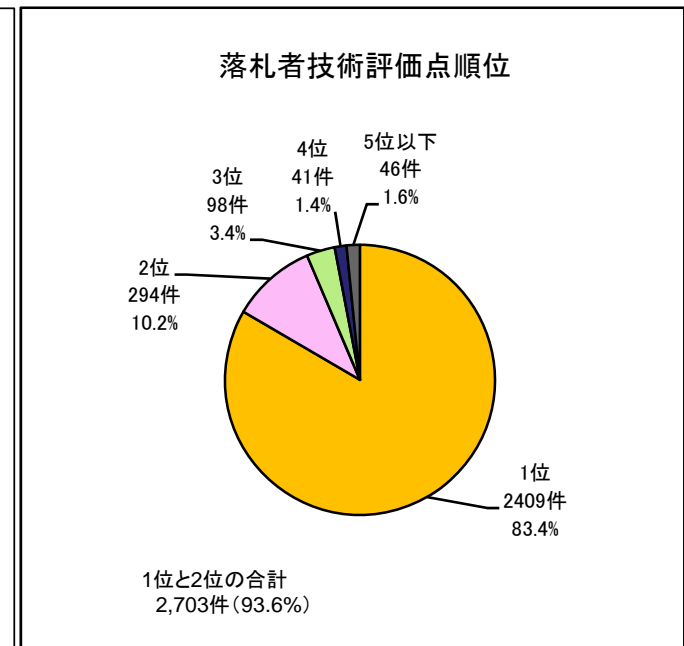
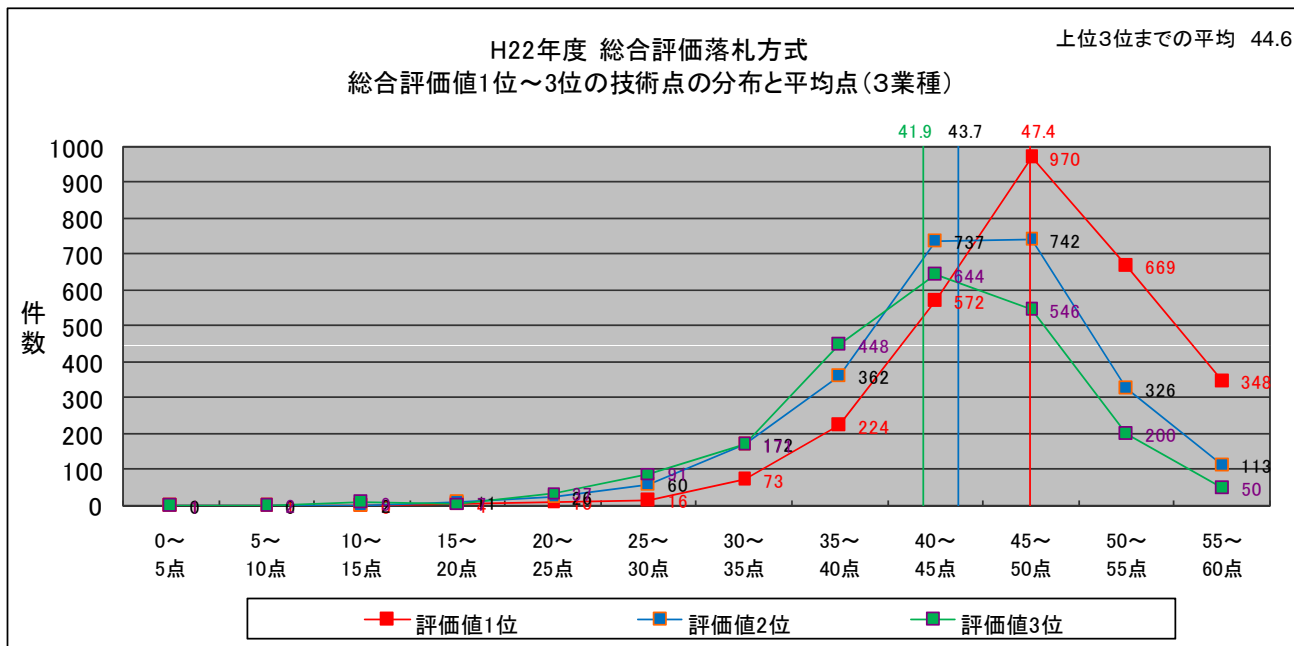
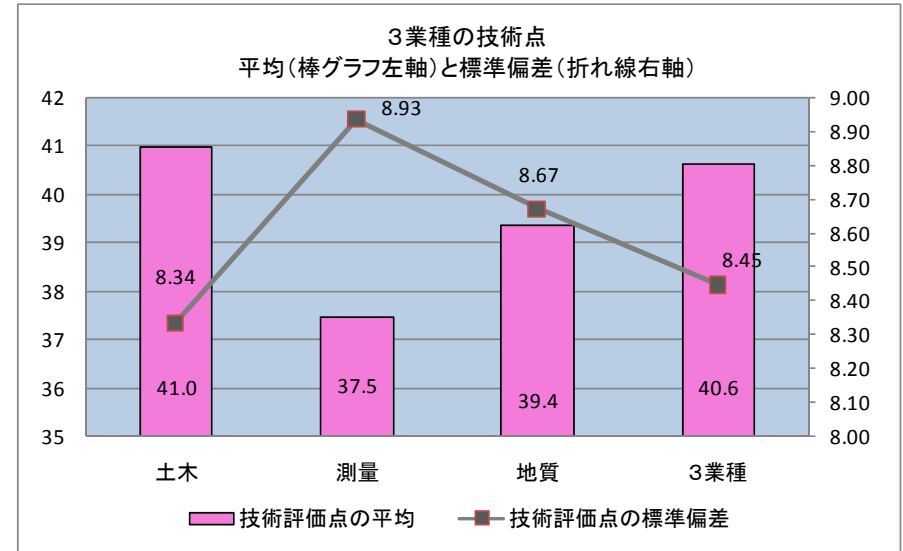
価格点1位	1,870件 (54.9%)
価格点1位以外	1,534件 (45.1%)
合計	3,404件

技術点1位	2,869件 (84.3%)
技術点1位以外	535件 (15.7%)
合計	3,404件

価格点1位	2,584件 (51.0%)
価格点1位以外	2,480件 (49.0%)
合計	5,064件

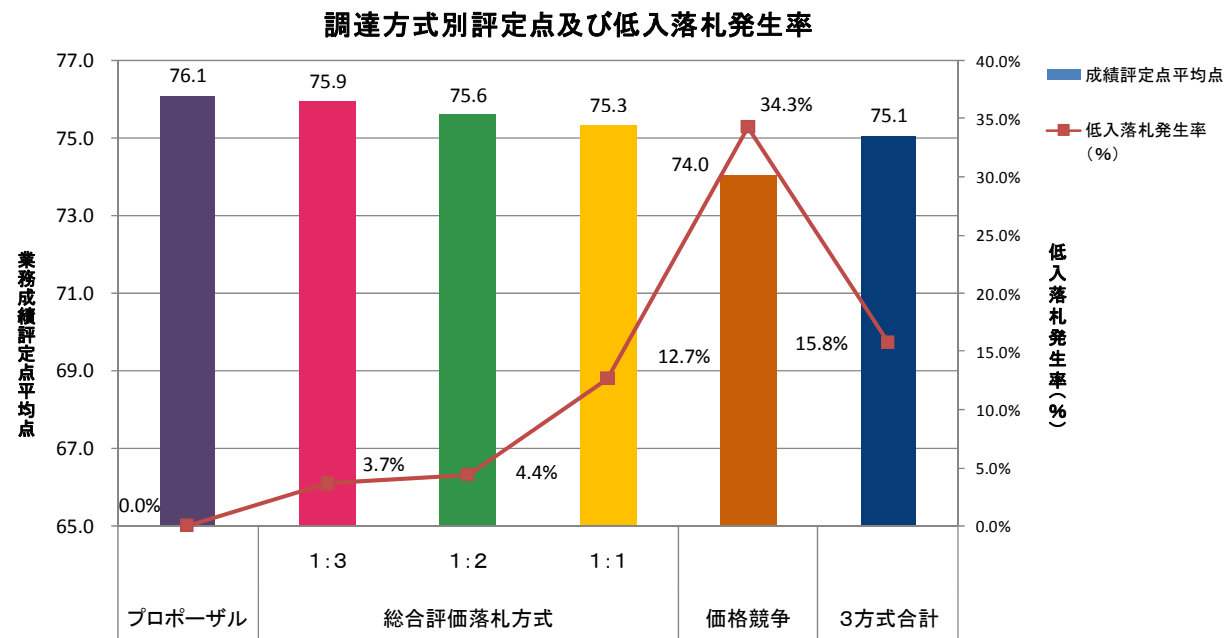
技術点1位	4,420件 (87.3%)
技術点1位以外	644件 (12.7%)
合計	5,064件

- ・ 9割を超える業務で技術点順位が1位又は2位の者が落札しており、**高いレベルで競争が行われている。**(右下図)
- ・ 評価値1位(落札者)と評価値2位、3位の点数を比較すると、その差はそれぞれ**3.7点、5.5点**となり、60点満点の**1割の範囲内で3者の競争が行われている。**(左下図)
- ・ 全応募者の技術点平均は40点前後。(右上図)



※分析対象は、3業種(土木、測量、地質)、2,888件

- ・平成22年度の総合評価落札方式の成績評定点平均は75.5点となった。これは**価格競争よりも1.5点高い得点**となっている。
- ・総合評価落札方式における**成績評定点平均は技術点の比率が高いほど高くなる傾向**があり、成績評定点平均で1:3の業務(76.0点)が1:1の業務(75.3点)よりも0.7点高い。



	プロポーザル	総合評価落札方式			価格競争	3方式合計
		1:3	1:2	1:1		
成績評定点平均点	76.1	75.9	75.6	75.3	74.0	75.1
低入落札発生率(%)	0.0%	3.7%	4.4%	12.7%	34.3%	15.8%

※分析対象は、全業種(土木、測量、地質、建築、補償、発注者支援)で、成績評定データとマッチングできた業務。
全調達方式N=12,456件、総合評価落札方式N=4,956件